

夕刊 いわき民報

中学の県外希望減る 平職安高校も競争率31倍

金の卵に三倍の求人

金の卵が三倍の求人倍率にはあがつた。平職安が十九日現在までに来春卒業予定者の求人倍率は、県外求人の三千七百六十三人に対し県外就職希望者がわずか三十六人なので、だぶ二〇四・五倍というものすごい求人倍率になつた。

だが、県内は毎年より一・六倍ひもの四・二倍の相変わらず出走が難しく低調。高校も求人は県外が毎年増加する三・五倍の求人率で、企業・事業所の景気回復を物語つける。

景気回復の影響から

来春中学校卒業して就職を希望する生徒は、平職安管内で一百三十六人と通学定着率は八六・九%と圧倒的。この現象は昭和四十六年就職者が圧倒的に多かつた時代に比べ、四年後の中学生の

三百九十九人、県外三百三十六人と並んでいた。これは地元事業者、企業、職安などの働きかけがつづいている。

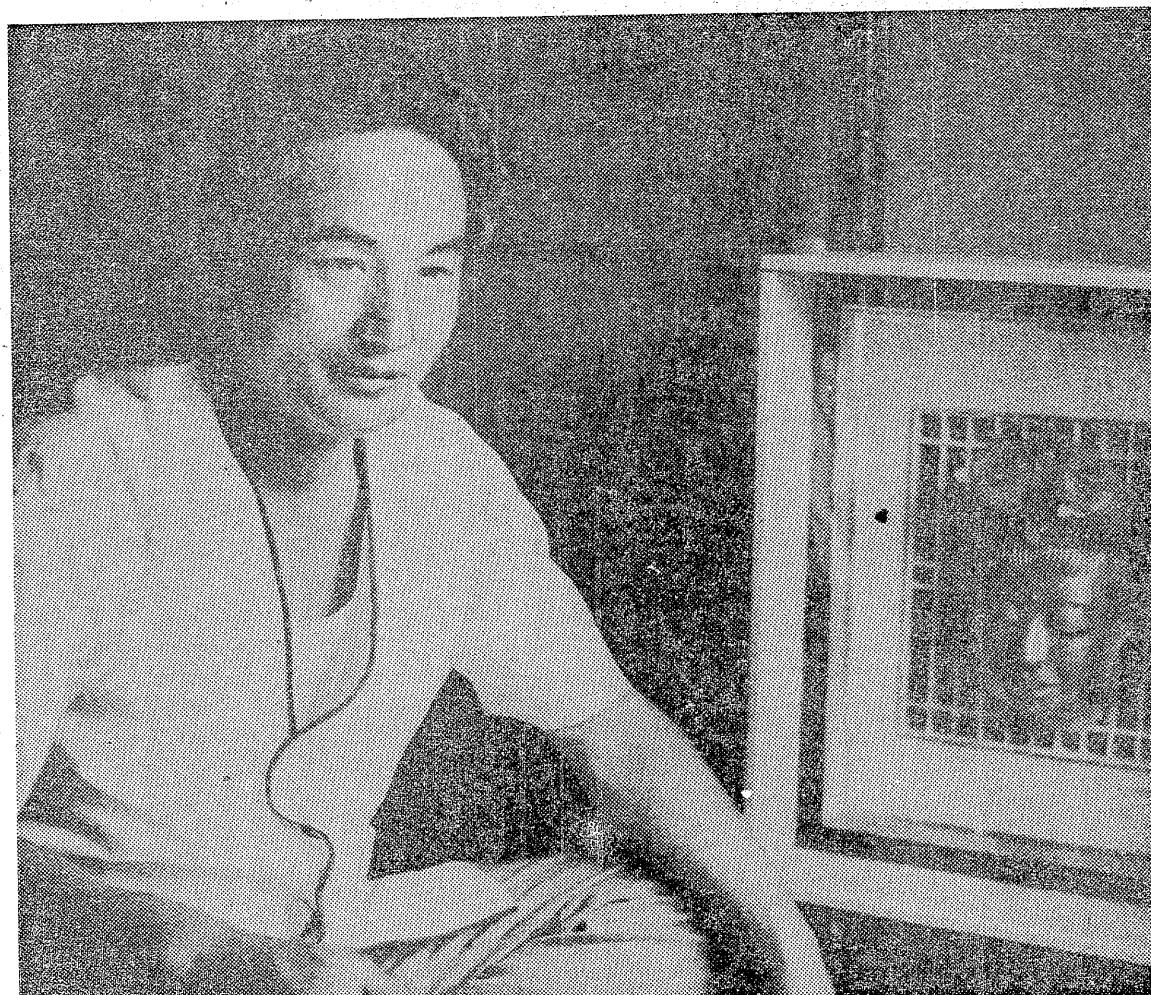
四十六年といふから、中学生の

五百八十七件の二・

倍。県外は

一千八百八十八件で、

繩索握った夫婦商法



この顔にならなければ一いい顔でしょ、と観音像の前に座り笑顔商法を語る鈴木社長

おなかの金額じた港に持來
したの店を立ちと十九のとき、この土産賣い、その日のことを楽しめと働いてしま

と涙で驚い、冗貴のあと帰り、わびを入れて働いた。十六のときだった。冗貴おやくのもタシを立派な商人にしよ、という想心だつたうがー」と奉公時代をなつねじむ。

「ひいと語田のよきじ
と一人前になつておやくのあひいんが信じ、一本立ち

お月さん、見たいへんや。き
てお月をこぼして実家に出た。

お月で、いつか奉公に出た。冗
貴は、六年、八百屋で五年の修業、あと酒屋に四年も手伝つ
たといふ。冗貴は商賣の異業に決して、そのとおり、まことに

お月で、いつか奉公に出た。冗
貴は、九年、八百屋で五年の修業、あと酒屋に四年も手伝つ
たといふ。冗貴は商賣の異業に決して、そのとおり、まことに

美味を出前でお客様へ

SATURDAY
談話室

寿し小太郎(有限)社長 鈴木 次夫氏

のれんをひく。ただただ「いひじる」裏口同音の声がかかる。みんな笑顔に迎える。愛想いい。笑顔の一人が近づいてくる。主人公の鈴木次夫氏。

【季節の花】からくれないに驚いた初秋の原野・墓地・堤防などいたるところに群落となつて人目をひくこの花は日本を含む中・東部アジアが原産地

花 ひがんばな
(マンジユシヤケ科)

松陰は篠も芒も異草も皆ことごとくまんじゅさげ赤し 長塚 鈴
多年生草本で葉に先立つて赤色百合状の花を数個輪状に開く古くから地下茎は旺剤やセキ止めに用いられている

観音像に心の安らぎ

みんなの和で築く明るい店

メモ帳

昭和九年、いわき市諏訪上湯
長谷町生まれ、39歳。
いちご奉公から叩き上げた根性の人。だが明るくやを割つたような人柄で、人に好かれ
るタイプ。

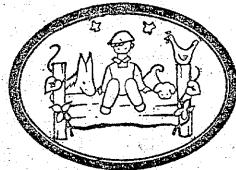
よ。手不足で従業員を求めるのが難むずかしい。が、幸い、わいは、みんな長く勤めてくれるで、ありがたい。ワタシは人に使われてきたから、その苦勞を知っている。仕事に



この秋 チョッピリ おとなになる子供たち

夏の太陽の下
のびのび遊んでいた
チビッコ達が
この秋にみせる小さな変化
チビッコ達はもう個性を
もちはじめました。

チャイルドパートナーショップ
キング
平ステーションビル1階
TEL (22) 0610



ひ込まれね。出前です。
宿上天の八。

